

大本山永平寺：七堂伽藍（大庫院）

大庫院は、寺院管理事務所、寺院施設管理事務所、講堂を備えた多目的施設である。1階は厨房で、寺院の料理長（典座）とその助手が精進料理と呼ばれる仏教の素食料理の一種を準備する場所である。大庫院は、3階建てで、地下1階を有し1929年に寺社建築を専門とする建設会社師田組が木材と鉄筋コンクリートを使用して再建した。

台所の近くの祭壇には、寺の守護神であり、四天王の一人である増長天に仕える韋駄尊天の像が安置されている。釈迦牟尼仏の死後、火葬された遺骨の一部が鬼に盗まれたと言われ、韋駄尊天は鬼を追いかけて仏舎利を取り戻したことから、韋駄尊天は護法神として、優れた走者として知られている。韋駄天の名前は今でも足が速い人の代名詞として使用されている。

大庫院の入口付近に巨大な「すりこぎ棒」が掲げられている。これは明治時代（1868年～1912年）に、寺院の建設工事中に、地面を叩いて平らにするために使用された道具から彫り出されたもので、ひどくすり減っている。これは僧侶が修行中に困難にあっても、他の人々の役に立つよう努めることを思い出させるために保存されているのである。近年、お寺の参拝者が「すりこぎ棒」に触れるのが人気になっている。調理の腕前が向上するとも言われている。